

令和7年度

自らの学びづくり研究班だより

令和7年6月6日(金) 第1号

研究テーマ

どの子も「わかる」「できる」喜びを実感し、自ら学びに向かう子供の育成
～ 子供理解に基づいた授業アイデアの工夫 ～

本年度の研究のねらいと研究内容

学級では、子供たちが同じ授業を受けてはいても、一人ひとりに目を向けると、様々な理由で同じように学習に向かうことが難しい状況にある子供たちがいます。それらの子供たちが抱える難しさは多様ですが、どの子にも共通して言えることは、毎日の授業・学習で「わかるようになりたい」「できるようになりたい」という強い思いがあることです。

そこで、今年度の本研究班では、目指す子供像を「『わかる』『できる』喜びを実感し、自ら学びに向かう子供」と掲げ、どの子も集団の学習活動の中で「わかる」「できる」喜びを実感し、主体的な学びにつなげるための授業アイデアの研究と実践を行っていきます。

まず、一人ひとりの特性(発達段階)について適切に理解するために、教育研究所の谷田部臨床心理士より助言をいただきながら、子供の認知特性の見取りのポイント等の基礎研究を行い、多様な特性を踏まえた学習支援の方法などについて、協議を重ねます。

そして、子供理解に基づいた授業アイデアについて、「教室環境」「教材教具の準備」「教師の声かけ」「授業の進め方」「単元構成」等の支援の手立ての視点から、研究・実践に取り組んでいきます。

また、伊勢崎市の学校教育方針の「伊勢崎教育アクション4」を踏まえ、「自律した学習者」を育てることを目指し、一人ひとりがしっかりと学びに向かうためのめあての立て方や、授業で学んだことを実感として味わい、次の授業・学びにつなげるための振り返りの視点等についても研究していきます。

児童生徒一人ひとりの学びの充実のために、基盤となるのは「子供理解」
児童生徒の困っていることに思いを巡らせることが充実した指導・支援のはじめの一歩となります

- 指導者の気づきから支援を考える
- 一人ひとりの違いや多様性について理解する
- 児童生徒のよさを生かした関係づくりを意識する

どの子も「わかる」「できる」喜びを感じ、主体的な学びにつながるように、ユニバーサルデザインの視点を生かした指導・支援の工夫に取り組んでいきます。

